

東京大学史料編纂所蔵

島津家文書

マイクロ版集成

平安時代から幕末維新时期におよぶ我が国武家文書の白眉



16ミリマイクロフィルム(索引CD-ROM付き)全705リール
セット特価 ¥14,100,000(税別)

発行：東京大学出版局
発売：丸善雄松堂株式会社



東京大学史料編纂所に所蔵される島津家文書は、旧薩摩藩主島津家重代相伝の文書で、総点数一万七千点余、その他島津家本と称する写本類約六千五百点、及び薩摩藩の史官伊地知季安・季通父子の編纂した『旧記雑録』前編・後編・追録・付録計三百六十二冊がある。時期は平安時代から幕末維新时期におよび、わが国武家文書の白眉といわれる。

島津家文書のうち黒漆塗箱に収納された文書は、一九九七年に国の重要文化財に指定された。内訳は、手鑑七帖、卷子二百三十八巻で、文書総数は五五七八通である。内容は、源頼朝下文を含む始祖島津忠久以来の歴代の中世文書と十五代貴久以来本宗家を継いだ伊作島津氏の中・近世文書を中心とする。

手鑑仕立ての『歴代亀鑑』二帖は、源頼朝・足利尊氏・織田信長らの文書、『国統新亀鑑』一帖は、徳川家康書状および御内書、同秀忠・家光の御内書の一部、『宝鑑』二帖は、関東下知状・鎮西下知状などの鎌倉幕府関係文書、足利尊氏・同直義らの御教書、室町幕府奉行人奉書などの鎌倉・室町時代の重要文書、『手鑑』二帖は、近衛前久ら近衛家よりの書状類を収めている。その他は、鎌倉期・室町期の文書も含めて卷子仕立てにされている。量的に大部分を占めるのは、戦国期以降の島津氏に関わる文書で、薩摩藩第二代藩主島津光久の文書までが卷子仕立てにされ、『御文書』と外題が付されている。以上の文書は、受け入れ当時、計十九箱の黒漆塗の箱に収められていた。

それ以後の文書は、薩摩藩記録所に保存された重要文書で、白木箱・大箱・中箱・小箱・長持などに収められたものである。主なものは、中世文書の写本や近世初期の記録原本、近世藩政文書の原本、『島津家世録正統系図』などの系図などで、文書の原形がよく残されているのが特色である。近世古文書学には欠かすことのできない史料群であるといえよう。さらに、江戸時代に島津家に入った町田・樺山・比志島・二階堂など家臣諸家の中・近世文書、台明寺・福昌寺など寺院文書なども含んでいる。

島津家本は、明治二十一年七月、宮内大臣より編纂を命じられた『島津家国事鞅掌史料』及びこれを編纂するために蒐集した写本・刊本類を中心に、伊地知季安の作成した写本や著作、その後の島津家家史編纂所で作成した写本等を納めている。

島津家文書は、藩政時代には非常時持ち出し可能なように鹿児島城本丸御番所に置かれていた。明治四年の廃藩置県後は、鹿児島城三の丸内御所の裏手「岩崎六ヶ所御蔵」に収納された。ところが、ここが西南戦争の舞台となるや、島津家文書の焼失を恐れた島津家家令東郷重持は、身命をかけて島津家文書箱七十九個を搬出し、島津家文書を守った。東郷は、その日の日誌に「御家無二至重ノ御文書及御系譜無欠完全タルコトヲ得ル」と誇っており、筆者の整理作業においても維新段階に伝存していた島津家文書の大部分は現在も残っていることが確認できた。すなわち、島津家文書は、もっともよく残された大名家文書のひとつであり、その多様な文書群は、中・近世史、古文書学、歴史地理学などの研究に必須の貴重な史料であると評価できる。今回、丸善株式会社の協力を得て、その全貌をマイクロフィルムとして研究者に公開することは、筆者の望外の幸せである。

戦国・織豊期の社会動向を具さに語る

早稲田大学教育学部教授 外園 豊基



このたび丸善株式会社より『島津家文書マイクロ版集成』が出版されたことは、まことに喜ばしいことである。

黒漆塗箱で有名な東京大学史料編纂所所蔵の島津家文書は、島津家文書・島津家本・旧記雑録の三グループから構成されている。鎌倉時代以来の名家、島津家の家文書であり、源頼朝・足利尊氏・豊臣秀吉・徳川家康など、そのときどきの歴史を彩ってきた人々が発給した文書などを含んでいる貴重なものである。

従来『大日本古文書 島津家文書』として刊行が進められてきたが、現在三冊で中断中である。したがって、同文書のなかには、まだ学界に知られていない中世文書もあるはずで、特に二階堂文書などの島津家の家臣となった他家の文書にも貴重なものが多いと思われる。

島津氏は、鎌倉初期から明治新政府成立までの長い時代にわたって、薩摩・大隅・日向三カ国を支配した大名であるが、私の関心からいえば、とりわけ豊臣政権における「取次」や太閤検地、あるいは島津氏と石田三成との関係、また、関ヶ原の戦や朝鮮侵略時における島津氏の動向がうかがえるなど、その文書群は非常に内容が豊富で、当該期における歴史は、同文書のみで語り尽くせるといっても過言ではないほど、ときの社会の動向を具さに語ってくれている。

東大史料編纂所で作成された島津家文書マイクロフィルムの検索システムを何回か利用したことがあるが、必要とする文書の写真版がたちどころに出てくるシステムで、非常に利便性が高く、しかも活字でなく写真であるので安心できる。

このフィルム出版により、いつでも自由に文書の全体が手に取ることが可能となり、研究面でおいに助かる。これが、各大学・研究機関等で使えるようになることは、大いなる福音であるといえよう。

「島津家文書」との出会い

共立女子大学国際文化学部教授 北島 万次



私が島津家史料と出会ったのは、大学院生一年のときである。以来、島津家史料とのつき合いは長いが、私の研究軌道にそくして、島津家史料のもつ意味を述べておこう。

*島津家の軍役奉仕と財政窮乏

一五八七(天正十五)年、島津氏が豊臣政権に服属した直後、島津氏は、京都への参勤や肥後国一揆の鎮圧など、豊臣政権への奉仕を強いられた。これにより島津氏は極度の財政窮乏に陥り、「借物島津」とまでいわれ、「前代未聞の軍労」と嘆いた。このような大名家内部の対応と苦悩を具体的に捉えることができる史料である。

*太閤検地と石田三成の恫喝

周知のように、島津分国の太閤検地は朝鮮侵略のさなかに施行された。それは第一次朝鮮侵略(文禄の役)のさい、島津家は「日本一の遅陣」をするなど、十分な朝鮮軍役を果たすことができなかった。そのため、家臣団の知行を削減して、朝鮮軍役で戦功をあげた場合に、家臣団の知行を増加する仕組みにした。これは石田三成とその御内人安宅秀安らの梃子入れによるものであるが、「島津家文書」によると、「朝鮮軍役を果たさねば島津家は滅亡」という恫喝の様子がひしひしと伝わってくる。

*島津忠恒の朝鮮在陣

一五九四(文禄三)年、島津忠恒(島津義弘の子息、のち家久)は兄である島津又一郎久保(朝鮮で病死)に替わって朝鮮に出陣した。そのさいの「高麗入日記」(「旧記雑録」)によると、朝鮮における島津家と諸大名とのつき合い、御用商人とのつき合い、忠恒の茶の湯や蹴鞠道楽の様子が分かる。また「家久公御譜中」(「旧記雑録」)などから、秀吉の命令による虎狩りの様子などがリアルに分かる。

*今後の研究にどのように役立つか

「島津家文書」は、とりわけ、戦国時代から江戸時代にかけての史料が質量ともに他の大名文書を凌駕しており、島津家内部の様子が手にとるように分かるものである。この史料は豊臣政権あるいは徳川政権と島津家の対応にとどまらず、大名相互間、さらに島津氏と家臣間の内輪の出来事もリアルに読みとれるものである。ここから統一権力に従属する諸大名がどのようにして領主階級の一員としてながらえていくのか、その普遍的な論理を導き出すことも可能である。その意味において質の高い史料であることはいうまでもない。また、大学の演習などでは、学生諸君が大名文書の原本を熟読するためにも、この「島津家文書マイクロ版集成」の使用をすすめるものである。

収録資料例(1)

島津家文書の世界

1 島津家文書伝存の事情

資料名
文書の運び出しに使用された長持ち
東京大学史料編纂所島津家文書収蔵庫写真
史談会速記録第3輯「市来四郎君講演」

2 御文書の世界

(1) 重厚な手鑑仕立て文書

資料名
黒漆塗箱特二番箱
歴代亀鑑其一
源頼朝下文(元暦2年8月17日付島津御庄官宛)
源頼朝下文(文治2年正月8日付信濃国塩田庄宛)
前右大將家(源頼朝)政所下文(建久8年12月3日付惟宗(島津)忠久宛)
將軍家(源実朝)政所下文(建暦3年7月10日付島津庄内薩摩方往人宛)
歴代亀鑑其二
一色直氏施行状(貞和5年11月14日付島津貞久宛)
足利尊氏御判御教書(觀応2年8月13日付島津貞久宛)
細川勝元書状(〔文明元年〕9月20日付島津立久宛)
足利義政自筆御内書(〔文明10年〕2月22日付島津忠昌宛)
宝鑑其一
雑訴決断所下文(建武元年9月29日付島津(伊作)宗久宛)
後醍醐天皇論旨(建武元年11月26日付島津(伊作)宗久宛)
後村上天皇口宣案(正平19年9月14日付島津(伊作)親忠宛)
今川了俊(貞世)書下(応安5年正月25日付島津(伊作)親忠宛)
宝鑑其二
室町幕府奉行人連署奉書(文明15年4月9日付島津一族御中宛)
赤松政則書状(〔年未詳〕7月8日付島津忠昌宛)
沙弥某施行状(文和元年10月26日付一色直氏宛)
一色道猷(範氏)知行宛行状(文和2年2月1日付島津氏久宛)
国統新亀鑑
徳川家康起請文(慶長4年4月2日付島津義弘・忠恒(家久)宛)
徳川家康書状(〔慶長5年〕4月13日付島津義弘宛)
徳川家康書状(〔慶長5年〕5月20日付島津忠恒(家久)宛)
徳川家康起請文案(〔慶長7年〕4月11日付島津義久宛)

(2) 「御文書」と外題を付された巻子仕立て文書

資料名
【島津氏草創期の文書】
薩州日州岡田帳(建久岡田帳)
薩摩国岡田帳案
日向国岡田帳案
御文書 伊作家 二十三通 巻三
薩摩国伊作莊並日置北郷領家雑掌地頭和与状(元亨4年8月21日)
島津莊薩摩方日置北郷下地中分絵図
御讀状置文
島津忠時誠状案(文永8年9月15日付)
関東下知状案(文永8年12月24日)
島津貞久置文(延文4年4月5日)
他家文書 二十七通 巻一
足利直義軍勢催促状(康永2年4月12日付智覧四郎宛)
室町將軍家足利義政御教書(康昌〔正〕元年10月26日付和田宛)
【天下人から島津家当主宛文書】
御文書 九通 家久公朝鮮御在陣
豊臣秀吉朱印状(文禄5年5月28日付島津忠恒(家久)宛)
豊臣秀吉朱印状(〔慶長3年〕3月13日島津義弘・忠恒(家久)宛)
御文書 光久公四十二通 巻六
徳川家光御内書(〔年未詳〕9月 8日付島津光久宛)
徳川家光御内書(〔年未詳〕12月28日付島津光久宛)
御文書 光久公四十八通 巻八
徳川綱吉御内書(〔年未詳〕5月 3日付島津光久宛)
徳川綱吉御内書(〔年未詳〕9月 7日付島津光久宛)
徳川綱吉御内書(〔年未詳〕12月29日付島津光久宛)
【天下人側近からの島津家当主宛文書】
御文書 家久公一 二十二通 巻六
加藤清正書状(〔文禄4年〕6月20日島津忠恒(家久)宛)
石田三成書状(〔文禄4年〕7月 3日島津忠恒(家久)宛)
小西行長書状(〔文禄4年〕7月 5日島津忠恒(家久)宛)
【島津家当主間の往復書状】
御文書 日新公御以来 十七通
島津貴久書状(永禄7年12月15日付島津義久宛)
島津忠良自筆書状(〔永禄8年〕正月15日付島津義久宛)

島津義久書状(慶長8年2月19日付島津忠恒(家久)宛)
島津忠恒(家久)書状(慶長7年10月18日付島津義久・義弘宛)
【起請文・掟書等】
御文書 廿三通 義弘 五十二通之内
豊臣秀吉禁制(天正20年4月26日付高麗国在陣諸將宛)
豊臣秀吉掟書(天正20年4月26日付島津義弘宛)
御文書 家久公六 二十三通 巻十八
島津家老連署掟書(前欠)(慶長16年10月23日付宛)
琉球国摂政佐敷王子朝昌起請文(慶長20年6月吉日付高橋大炊助・町田駿河守宛)
御文書 家久公 四十二通 巻五
島津家久家老連署掟書(寛永10年6月18日付)
島津家久条書(西12月7日付)
御文書 光久公 四十通 巻六
島津光久掟書(明暦3年7月17日付)
細川忠利起請文案(元和7年2月6日付島津家久宛)
【外交関係文書】
御文書 明・阿蘭陀・朝鮮・暹羅 十八通
朝鮮国礼曹佐郎黄致誠復書(万暦19年7月日付日本国日向大隅薩摩三州太守藤原(島津)武久宛)
おらんだ国平戸商館長ジャックス・スペックス書状(〔元和6年〕3月5日付喜入摂津進外2名宛)

3 薩摩藩政下の行政文書の一例

(1) 藩主の指示を伝える文書

資料名
島津継豊仰出(享保14年6月4日付藩記録所宛)
島津継豊仰出(享保14年6月21日付藩記録所宛)
島津継豊仰出御書付(〔宝暦5年〕7月付〔円徳院様御逝去ニ付書付〕)
島津継豊仰出御書付(〔宝暦5年〕7月付〔円徳院様御逝去ニ付書付〕)
薩摩藩家老鎌田政昌・島津久馮連署添状(〔宝暦5年〕7月付〔円徳院様御逝去ニ付書付〕)

(2) 家老の示達文書

資料名
薩摩藩家老種子島久基御書付写(〔享保5年〕正月付記録奉行宛)
薩摩藩家老島津久貫御書付(享保5年子正月24日付記録奉行宛)
薩摩藩家老島津久貫御書付並高橋七郎右衛門証状(享保5年子5月25日付記録奉行宛)
薩摩藩家老島津久貫御書付並高橋七郎右衛門証状(享保5年5月晦日付記録奉行宛)

(3) 家老の御用状

資料名
薩摩藩家老比志島範房問合御書付写(〔享保5年〕9月21日付島津久貫・島津久武・伊集院久矩・種子島久基宛)
薩摩藩家老比志島範房問合御書付写(〔享保5年〕9月21日付島津久貫・島津久武・伊集院久矩・種子島久基・島津久兵宛)
薩摩藩家老種子島久基御書付写(〔享保6年〕7月21日付島津久貫・島津久武・伊集院久矩・北郷久嘉宛)

(4) 家来の書付

資料名
広敷用人横切書付(嘉永2年6月27日付)

4 薩摩藩及び島津家の修史事業

(1) 藩史編纂を担った記録所

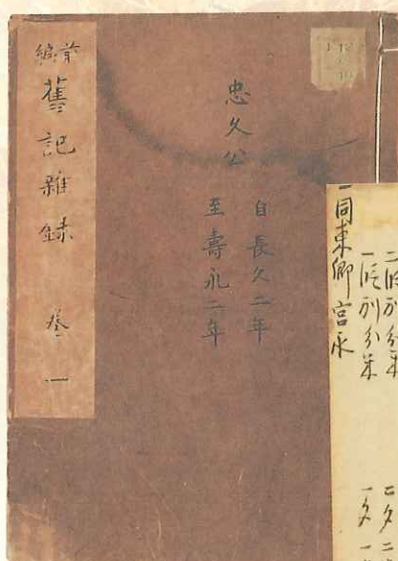
資料名
伊地知氏雑録
御記録奉行本田新右衛門親方へ御家譜編集被仰付内万伺書草案其外聖堂御造立之地面調査等之写(記録方関係書類)
明治三十四年 磯編輯方事業取調書 三月廿五日付ニテ編輯方ヨリ長谷場長宛二宛テタルモノ控
新編島津氏世録正統系図

(2) 編纂物のいろいろ

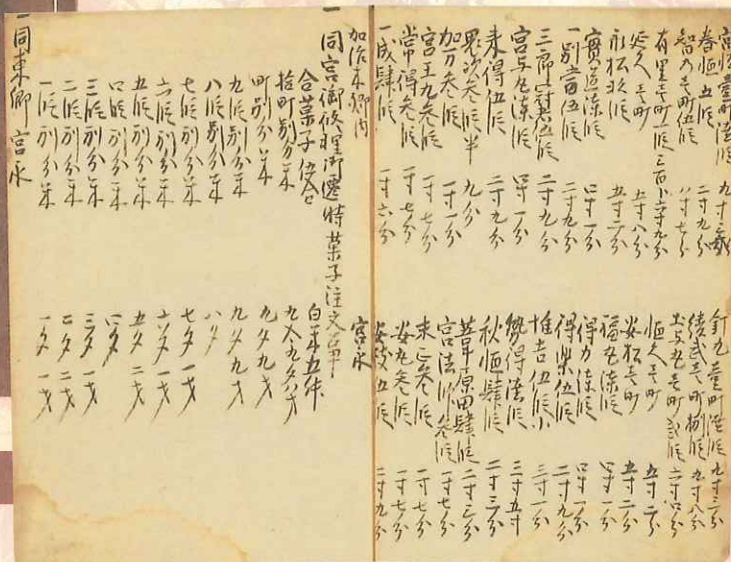
資料名
【鹿児島中近世の歴史を語る重要史料「上井覚兼日記」と「旧記雑録」】
上井覚兼日記
旧記雑録
【伊地知季安著作】
南聘紀考 伊地知季安撰(天保初年頃)
管窺愚考 伊地知季安撰(天保4年)
寛永軍徴 伊地知季安編(天保3年頃か)
薩州唐物来由考 伊地知季安編(天保11年)
御当家様就一向宗御禁制愚案 補遺共 伊地知季安著(天保5年)



歴代龜鑑



旧記雜録



羽柴秀吉直

薩藩勝景百図一



御歴代御花押写 一卷

収録資料例(2)

伊地知季安 一向宗禁制考(天保6年)
西藩田租考 伊地知季安編(天保8年)
新納忠元勲功記 伊地知季安撰(天保14年)
雲遊雜記伝 伊地知季安編(文政9年)
【徳田邑興著作】
島津家御旧制軍法巻鈔 徳田邑興著(享和元年)
諸所御戦法記 徳田邑興著
【市来四郎著作】
斉彬公御言行録 市来四郎編
旧邦秘録 市来四郎編
斉宣公史料 市来四郎編
斉彬公史料 市来四郎編
忠義公史料 市来四郎編
【伊藤陵舎著作】
鹿兒島ふり 伊藤陵舎著(天保9年)
【島津家当主に関わる著書等】
鳥名便覧 島津重豪著(天保元年)
通俗国史 島津久光著(明治12年)
重豪公真筆ローマ字写真
斉彬公真筆ローマ字日記写真
斉彬公御筆政文(嘉永3年)
【島津氏歴代当主の花押】
御歴代御花押写 一卷
花押数
【役人補任等史料】
薩藩役職補任
薩藩重職補任
薩摩武鑑(享和2年3月18日)(万延元年ノ写)
【宗教統制関係】
明和宗門手札改条目(明和9年3月)
安政宗門手札改条目(安政6年正月)
得能家届書控

激動期の島津氏—九州経略から関ヶ原まで

1 戦国期に生きた歴代当主

資料名
島津氏系図(巻1)
義弘公御弓箭御筆記 惟新公御自記

2 戦国大名島津氏の終焉

(1) 島津氏の九州経略

資料名
島津氏の九州経略前夜の状況図
羽柴秀吉直書(天正13年10月2日付島津義久宛)
上井覚兼日記(巻25)(天正14年正月23日条)
天正14年豊後へ発向之事(「後編薩藩旧記雑録巻11」)

(2) 島津義久の降伏

資料名
島津義弘書状(天正15年5月7日付島津義久側近本田親貞宛)
豊臣秀吉判物(天正15年5月9日付島津義久宛)
島津義久条書(天正15年6月11日付)
島津義久書状案(天正16年卯月21日付比志島国貞・本田正親宛)
島津義久書状案(天正16年仲秋12日付中山王宛)
石田三成島津家入質番組書上(天正19年12月2日付島津義久・義弘宛)
豊臣秀吉朱印状(〔年未詳〕正月廿日付島津義久宛)
島津義弘書状(〔天正17〕年4月6日付伊地知重秀宛)(「後編薩藩旧記雑録巻14」)
島津義弘書状(天正19年5月7日付鎌田政近宛)(「後編薩藩旧記雑録巻14」)

(3) 秀吉の戦後処理—太閤検地と知行割り

資料名
島津義弘書状(文禄2年7月8日付島津義久宛)
新納休閑斎旅庵書状(文禄2年8月23日付山崎久兵衛尉・川上四郎兵衛尉宛)
長谷場越前自記(文禄3年9月15日)条「後編薩藩旧記雑録巻18」)
安宅秀安書状(文禄4年卯月6日付島津義弘宛)
石田三成書状(文禄4年卯月14日付島津忠恒(家久)宛)
豊臣秀吉朱印知行方目録(文禄4年6月29日付島津義弘宛)
樺山紹剣自記(「後編薩藩旧記雑録巻19」)
島津義久書状(〔文禄4年〕7月20日付島津忠恒(家久)宛)
島津義久書状(〔文禄4年〕8月21日付島津義久娘宛)(「後編薩藩旧記雑録巻19」)
島津義弘書状(追而書)(文禄4年9月13日付島津忠恒(家久)宛)

島津義弘書状(文禄4年12月朔日付島津忠恒(家久)宛)
島津義久書状(文禄5年9月3日付島津義弘宛)

3 豊臣政権下の試験—朝鮮出兵

(1) 文禄の役と島津氏

資料名
豊臣秀吉高麗出陣立書案(天正20年6月3日付島津義弘外3名宛)
島津義弘書状(文禄元年5月5日付国元家老川上肱枕宛)(「後編薩藩旧記雑録巻15」)
「国分左京譜」本藩人物誌
豊臣秀吉朱印状案(文禄元年6月18日付鍋島直茂・加藤清正宛)
島津義久書状案(文禄元年7月付島津義弘宛)
豊臣秀吉朱印状(天正20年7月10日付島津義久宛)
島津義弘書状(文禄2年11月11日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(文禄3年8月7日付義弘妻宛)(「後編旧記雑録巻33」)
安宅秀安書状(文禄3年10月6日付島津義弘宛)

(2) 慶長の役と島津氏

資料名
豊臣秀吉朱印状(文禄5年9月7日付島津義弘宛)
豊臣秀吉高麗再度出勢法度(慶長2年2月21日付島津義弘宛)
豊臣秀吉高麗再度陣立書(慶長2年2月21日)
島津忠恒(家久)書状(慶長2年2月11日付島津義弘宛)
面高長連坊朝鮮在陣日記
征韓録
島津義弘書状(慶長3年正月9日付川上肱枕宛)
島津忠恒(家久)書状(慶長3年10月22日付町田久倍外6名宛)
豊臣氏五大老連署状案(慶長3年11月3日付島津義弘・忠恒(家久)宛)
朝鮮泗川表島津勢討捕首注文(慶長3年10月1日付)
豊臣氏五大老連署感状案(慶長4年正月9日付島津忠恒(家久)宛)

4 生き残った島津氏

(1) 庄内の乱を凌いで

資料名
庄内軍戦場改日記
伊集院弥六左衛門久茂起請文(慶長4年3月24日付島津忠長宛)
伊集院忠貞書状案(慶長4年6月18日付川上肱枕宛)
徳川家康書状(〔慶長4年〕7月9日付島津忠恒(家久)宛)
伊那令成書状(〔慶長4年〕7月9日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(〔慶長4年〕8月6日付伊集院忠貞宛)
島津義弘書状(〔慶長5年〕2月4日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(慶長5年2月14日付島津忠恒(家久)宛)
島津義久・忠恒(家久)連署起請文(慶長5年2月29日付山口勘兵衛尉宛)

(2) 西軍に賭けた関ヶ原合戦

資料名
島津義弘書状(慶長5年卯月8日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(慶長5年5月25日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(慶長5年7月24日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(慶長5年7月29日付本田正親・伊勢貞成宛)
島津義弘書状(〔慶長5年〕8月20日付本田正親宛)
本藩人物誌 出水衆中馬大蔵譜
毛利輝元・宇喜多秀家連署状(慶長5年8月朔日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(慶長5年8月8日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状(慶長5年9月7日付島津忠恒(家久)宛)
本田正親書状(〔慶長5年〕9月11日付新納旅庵宛)
井上主膳覚書(明暦3年9月10日付)(「後編旧記雑録巻52」)
関ヶ原合戦屏風
帖佐彦左衛門覚書(「後編旧記雑録巻51」)
島津義弘書状(慶長5年11月14日付島津忠恒(家久)宛)

(3) 島津氏の巧妙外交—関ヶ原の戦後処理

資料名
立花親成書状(〔慶長5年〕10月27日付島津義久・義弘・忠恒(家久)宛)
島津義弘書状案(〔慶長6年〕4月4日付島津忠恒(家久)宛)
島津義弘書状案(〔慶長6年〕7月21日付島津義久宛)
山口直友・本多正信連署起請文(慶長6年8月24日付島津義久・忠恒(家久)宛)
山口直友・寺沢正成連署状案(慶長6年9月28日付島津義久・忠恒(家久)宛)
立花尚政書状案(慶長5年11月22日付島津義久・忠恒(家久)宛)
島津忠恒(家久)書状(〔慶長6年〕正月16日付家老鎌田政近宛)(「後編旧記雑録巻53」)
徳川家康起請文(〔慶長7年〕4月11日付島津義久宛)
島津忠恒(家久)書状案(慶長7年8月11日付島津義久宛)
加治木御日記(慶長16年正月12日条)(「後編旧記雑録後編巻66」)

『黎明館企画特別展 奇跡の至宝「島津家文書」』より転載

東京大学史料編纂所蔵

島津家文書マイクロ版集成

16ミリマイクロフィルム(索引CD-ROM付き) 全705リール セット特価 ¥14,100,000(税別)

発行：東京大学出版局 発売：丸善雄松堂株式会社

旧薩摩藩主島津家重代相伝の文書、典籍など約24,000点をマイクロフィルムに収録。
全体は、1. 島津家文書、2. 島津家本、3. 旧記雑録、の以下三部から構成されている。

島津家文書

全247リール(中、24リールは重複) ¥5,129,000(税別)

国の重要文化財の指定を受けた黒漆塗箱には、源頼朝下文を含む始祖島津忠久以来歴代の中世文書「歴代亀鑑」、あるいは「国統新亀鑑」、「宝鑑」、「手鑑」などの十五代貴久以来本宗家を継いだ伊作島津家の中・近世文書などが納められている。その他、鎌倉・室町期の文書、戦国期以降、第二代藩主島津光久の文書までが対象となっている。黒漆塗箱以外にも白木箱、大箱、中箱、小箱、長持等に収納された近世島津家の記録所に保管された重要文書なども含んでいる。

注文番号	分類	リール数
文書-1	黒漆塗箱	10
文書-2	小箱四十九番箱ほか	16
文書-3	白木箱	14
文書-4	旧番所三番大箱ほか	18
文書-5	系図・家譜二十七番上箱ほか	26
文書-6	系図・家譜六十五番箱ほか	21
文書-7	長持五番ほか	14
文書-8	小箱二十九番箱ほか	15
文書-9	小箱兵法伝書ほか	25
文書-10	新長持	14
文書-11	小箱高辻帳ほか	30
文書-12	小箱造営図志箱ほか	29
文書-13	他家箱	15

旧記雑録

全40リール(中、1リールは重複) ¥897,000(税別)

薩摩の史官伊地知季安・季通父子の編集による島津家の歴史書362冊を収録している。

注文番号	分類	リール数
雑録-1	前編・後編・付録	20
雑録-2	追録	20

島津家本

全457リール(中、14リールは重複) ¥10,189,000(税別)

島津家本は、明治21年7月、宮内大臣より編纂を命じられた「島津家国事執掌史料」及びこれを編纂するために蒐集・作成した写本・刊本類を中心に、その後の島津家史編纂所で蒐集・作成された写本類。

注文番号	分類	リール数
本-1	第一門薩藩関係史料 1類~4類	10
本-2	同 5類~7類	15
本-3	同 8類	19
本-4	同 9類~11類	4
本-5	同 12類①	21
本-6	同 12類②	20
本-7	同 12類③	20
本-8	同 12類④	22
本-9	同 12類⑤	20
本-10	同 12類⑥	5
本-11	同 13類~14類	6
本-12	第二門薩藩関係史料 1類~2類	11
本-13	同 3類	28
本-14	同 4類	11
本-15	同 5類~7類	15
本-16	同 8類	19
本-17	同 9類~11類	11
本-18	同 12類①	18
本-19	同 12類②	19
本-20	同 14類(含13類・15類)①	21
本-21	同 14類(含13類・15類)②	22
本-22	同 14類(含13類・15類)③	22
本-23	同 14類(含13類・15類)④	24
本-24	第一門一般関係史料 1類~8類	11
本-25	同 12類	5
本-26	第二門一般関係史料 1類~3類	16
本-27	同 4類~7類	4
本-28	同 8類	22
本-29	同 9類~11類	7
本-30	同 12類~13類	9

*重複リールとは、1リール中に異なる分類の史料を収録したため、複数の小分類に重複してカウントされるリールをさします。
したがって、小分類ごとのリール数合計から、これら重複リール数を減じたものが、実際のリール数となります。

Ⓜ MARUZEN-YUSHODO

丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 開発部 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町10-10

Tel:03-3357-1449 Fax:03-4335-9419 Email:archives@maruzen.co.jp http://myrp.maruzen.co.jp/